

移住者新聞

2026
Vol.1

二〇二六年九月
発行：日田市
商工労政課
雇用移住促進係



令和6年11月に大分市から日田市へ移住した渡辺さん夫婦。会社員を続けながら、古民家の家庭菜園から畑付きの土地へと、一步步「農ある暮らし」を広げています。

大分県内でも「県外からの移住者数トップクラス」を誇る日田市。今回は、富士通の社員としてフルリモートで働きながら「農ある暮らし」を形にしようとしている、中津市出身の渡辺拳竜さんと仙台市出身の恵利花さん夫婦にお話を伺いました。

たのが日田の農家さんでした。若くてエネルギーシユな農家さんたちが「ITの強みを農業と掛け合わせてほしい」と迎えてくれ、その熱量に引き込まれて日田に移住先を決めました。

◆日田での暮らし

日田では、空き家バンクを通じて、風情のある大きな古民家を借りて住んでいます。部屋数が多いので友人がよく泊まりに来てくれます。庭でバーベキューや燻製を楽しむこともあります。友人を連れていくお気に入りの場所は、天瀬町の温泉「山荘天水」です。桜滝を眺められる露天風呂に、みんな大喜びしてくれます。広い家に移ったことで、夫婦の念願だった猫も飼

始めました。マンチカンの「ポラリス」です。銀河のようにきれいな目をしていたので、星の名前を付けました。夫婦二人では使い切れない部屋のひとつをポラリスの部屋にしている、毎日楽しそうに走り回っています。



愛猫のポラリス

が広がっていて、いい気分転換になります。庭の一角では、初めての地植えで家庭菜園を始めました。最初は鋤で耕していたのですが、それを見ていた近所さんが耕運機を貸してくれて、一気に作業が進みました。今ではミニトマトやナス、じゃがいもが採れるようになり、育てる楽しさを実感しています。



古民家の和室を仕事部屋に

◆日田にたどり着くまで
中津市で生まれ、大分大学を卒業後、富士通に入社して上京しました。新人研修で出会った妻と結婚しました。
転機はコロナ禍です。完全テレワークになり、富士通が大分県と移住の協定を結んだことで、仕事を变えずに大分へ戻れるようになりました。

まずは学生時代を過ごした大分市に移住しました。「農ある暮らし」を意識したのは、大分市に住んでからです。大分県の新規就農者の特集した動画を見て、自然の中で体を動かして生きる姿にひかれました。ただ、私は農家の生まれではありません。竹田や由布の市役所や農家さんを訪ねて回るなかで、紹介され

夫婦の念願だった猫も飼

バックナンバー
はこちら



◆ぶどう農家の夢から「半農半X」へ

移住当初は、ぶどう農家になるのが目標でした。先輩農家さんの畑を手伝いながら、引き継げる果樹園を探していました。条件のそろった農地はなかなか出てきません。

そこで考え方を変えました。専業農家でなくても、会社員を続けながら家のすぐそばに畑があれば、「ある暮らし」はできる。そう思っていたころ、知人の紹介で、日田市石井町に約1千㎡の土地を購入しました。家を建てる部分を除いても、5百㎡ほどを畑として使えます。今はそこに新しい家を建てています。石井町では定期的に地域の朝市が開かれていますので、家が完成したら自分で育てた野菜を出してみたいと思っています。



庭の畑で採れたじゃがいも

◆ひた暮らしで伝えたい事、知ってほしい事

正直にお伝えすると、日田の気候はなかなか手ごわいです。夏は盆地特有の蒸し暑さがあり、冬は思ったよりも冷え込みます。それでも、その寒暖差があるからこそ、日田の野菜や果物はおいしいのだと思います。

そして日田は「九州の真ん中」にあります。休日には阿蘇やよまなみハイウェイへドライブに行けますし、福岡市内へもすぐに行けます。福岡空港へも行きやすいので、県外との行き来はもちろん、海外旅行にも出かけやすくなりました。今年の春には、夫婦でトルコを旅してきました。オンとオフを切り替えながら暮らすには、とてもいい場所です。



トルコ旅行(カッパドキア)

◆おすすめの場所

地元で愛される町中華「司煌(しこう)」には、夫婦で何度も通っています。一度食べたらくせになる味で、すっかり行きつけになりました。水のおいしい水郷・日田だからこそ、料理もひと味違う気がします。

◆今後の目標

新しい家では、本業で培ったITやAIのスキルを畑で試していきたいです。例えば、センサーで畑の環境を自動で見守る仕組みなど、少しとがった技術を自分の畑で試して、そのノウハウを日田の農家さんや地域みなさんに共有できたらと考えています。

さらに、家の一部を民泊として開く予定です。ノマドワーカーの仕事の拠点として、畑を生かした「農ある暮らし」の体験の場として、そして九州の真ん中にある日田から九州を旅する拠点として、泊まってもらえる場所にしたいです。

畑と民泊とITを組み合わせたこの暮らし方そのものに、夫婦の名前

から「Ryuka(リュカ)」という屋

号を付けました。この屋号を、日田で事業として育てていくのが今の目標です。テレワークで地方に住みたい方や、農業に興味がある方がいたら、気軽に声をかけてください。移住や日々の暮らしの記録は、私が運営しているブログでも発信しています。



ブログはこちら



行きつけの町中華「司煌(しこう)」



古民家の庭でひと休み